

責任者	総合政策学部長	作成部局	総合政策学部
-----	---------	------	--------

2021年度に向けた教育研究目標

【A票:教育研究目標1】

(タイトル)
広範な分野の知識の獲得と政策分析力の形成

(狙い内容)
総合政策、メディア情報、都市政策、国際政策の広範な分野の知識を身につけると同時に、文書、文献の意味を的確に理解し、さらに自らの考えを正しく文章で表現するための読解力を養う。また、データを活用するために必要となる知識と技法の基礎を習得する。さらに、専門的知識の習得過程において、問題発見能力、デザインおよび計画能力の形成を目指す。これらを通じて、的確な状況判断と状況分析の能力と、政策および計画の立案に必要な能力を身につける。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

新カリキュラムを履修した卒業生全員が、それぞれ必要とする専門的な知識と総合的な政策分析力を習得している。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

2. 達成度評価

評価指標	カリキュラム改訂 リサーチ・フェアでの政策分析・立案に関連する発表テーマ数	評価尺度	A: 行動計画①②がともにAに達したレベル B: 行動計画①②がともにBに達したレベル C: 行動計画①②が具体的検討に入ったレベル D: 行動計画の未着手	変更有無 (有)無
	<変更時記入欄> カリキュラム改正スケジュールの変更		<変更時記入欄> C: 行動計画①②がともに具体的な検討段階に入ったレベル	

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度(計画策定時)		D	C	B	A	A	A	A	(有)無
2016年度進捗状況 & 今後の目標値	評価尺度: A~D <実績>	D	実績 <2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> D	D	C	B	B	A	
	見込・実績・目標(値又は状況)	<実績> 具体的な議論は開始されていない		将来構想検討WGが立ち上がったため、カリキュラム改正予定の変更が生じることになった					

【2016年度の進捗状況について】 ←

当初2018年度からのカリキュラム改正を目指し、学部カリキュラム検討委員会などで議論を深めてきたが、外部環境の変化などにより、長期的な学部将来構想を議論する必要性が生じてきた。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

長期的な学部再編の検討に着手したので、早急なカリキュラム改正は見送ることにしたため。

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか?	→ はい・ <u>いいえ</u>
<上記で「いいえ」を選んだ場合>	
①理由: 長期的な学部将来構想の見直しに着手したため。	
②今後必要な取組 2016年度中に将来構想WGの答申を得て、2017年度中に教授会で議論をし、学部将来構想の方向性を定めていく。	

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示

- ・ 2016年度の将来構想WGの答申を踏まえて、2017年度には具体的な施策に関する議論が深められることを期待します。(B)
- ・ 学部将来構想に沿ったカリキュラムの検討が期待されます。(C)
- ・ 計画に対して遅れがあるので対応が求められる。(E)

【A票:教育研究目標2】

(タイトル)

各分野における実務的専門的技術の獲得

(狙い内容)

総合政策(環境政策、公共政策、言語文化政策)、メディア情報政策、都市政策(建築)、国際政策の各分野において求められる専門的知識と専門技術を獲得する。そして、学生が卒業後に、産官学の各分野において、その知識と技術を活用できるようになることを目指す。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

より上位の専門的技術や資格取得をめざす学生が増えている。
大学院への進学希望者が増えている。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

2. 達成度評価

評価指標	専門的資格取得に関連する科目の履修者比率。 大学院進学者数。	評価尺度	A: 行動計画①②がともにAに達したレベル B: 行動計画①②がともにBに達したレベル C: 行動計画①②が具体的検討に入ったレベル D: 行動計画の未着手	変更有無 (有)無
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄> C: 行動計画①②がともに具体的な検討段階に入ったレベル	

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度(計画策定時)		C	C	B	B	B	A	A	(有)無
2016年度進捗状況 & 今後の目標値	評価尺度: A~D	<実績> C	<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> 見込み C						
	見込・実績・目標(値又は状況)	<実績> 行動計画①53% 行動計画②28名	<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> ①61% ②30名						

【2016年度の進捗状況について】 ←

建築士プログラムの履修希望者数が増加している一方、大学院進学者数は頭打ち状態である。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？

→ (はい) いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示

- ・ 大学院進学者数は頭打ち状態とのことですが、要因や背景を分析し、今後の具体的な対策に繋げていくことが望まれます。(B)
- ・ 概ね予定通り進捗している。(E)
- ・ 順調に推移しており、評価できます。(G)
- ・ 大学院進学者について、研究科の目標2とも関係しますが、本研究科への進学者についても視野に入ってくるかもしれません。(I)

【A票:教育研究目標3】

(タイトル)

語学力と的確なコミュニケーション能力の形成

(狙い内容)

英語を中心とする語学力および政策に関する議論やディベートの能力を向上させるとともに、コンピュータによる情報処理とプレゼンテーションの技法を習得する。このことを通して、将来的には国内外において自らの政策や計画を的確かつ論理的に説明できるようになることを目指す。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

すべての学部生がそれぞれのレベルに応じて、キャンパス内外で抵抗なく英語を話し、聞き、書くことができる。
 現在よりも多くの学生が海外研修や留学プログラムに参加している。
 多様なアクティブラーニングのプログラムが実施され、表現力やコミュニケーション力に自信を持つ学生の活動が活発化している。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

2. 達成度評価

評価指標	学部独自の海外研修・留学プログラム数の増加 アクティブラーニング関連科目数の増加	評価尺度	A: 行動計画①②がともにAに達したレベル B: 行動計画①②がともにBに達したレベル C: 行動計画①②が具体的検討に入ったレベル D: 行動計画の未着手	変更有無 (有)無
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄> C: 行動計画①②がともに具体的な検討段階に入ったレベル	

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度(計画策定時)		C	C	B	B	B	B	A	有(無)
2016年度進捗状況 & 今後の目標値	評価尺度: A~D	<実績> C	見込み	<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標>					
	見込・実績・目標(値又は状況)	<実績> 海外研修FW 1件 アクティブラーニング5件		海外研修FW 2件 アクティブラーニング6件					

【2016年度の進捗状況について】 ←

ソノマ州立大学英語研修&FWは継続して実施していく。また今年度は理工と共同で海外研修プログラムを現在計画中であり、実現されれば、海外研修FWの参加者数の増加が期待できる。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → (はい) いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示

- ・ 評価指標は、プログラム数ではなく、参加者数とすることも考えられます。(A)
- ・ 理工との共同での海外研修プログラムの今後の展開に期待しています。(B)
- ・ 留学プログラム、アクティブラーニング科目数が順調に推移しています。(C)
- ・ 予定より進捗している。(E)
- ・ 順調に推移しており、大変評価できます。(G)

【A票:教育研究目標4】

(タイトル)
 社会の諸問題を見据えた課題設定とそれを遂行するための能力の形成

(狙い内容)
 各分野の教員が自らの能力を常に研鑽し、教員間あるいは教員と外部の専門家との協働作業を通して、幅広い研究課題を指導できるような体制を構築する。また、学生は、卒業論文、進級論文、ファイナルレポートなどの各学年に課せられる研究課題に対する取り組み、また各分野の専門教員による研究指導により、その問題発見能力、解決能力を研鑽し、そのことを通して社会の諸問題に対峙することができる能力を形成する。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

学外フィールドワークをはじめ、PBL関連科目への取り組みが活性化している。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

2. 達成度評価

評価指標	フィールドワークプログラムにおける満足度 学外の実務家、行政担当者などを招いた講演会数	評価尺度	A: 行動計画①②がともにAに達したレベル B: 行動計画①②がともにBに達したレベル C: 行動計画①②が具体的検討に入ったレベル D: 行動計画の未着手	変更有無 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄> C: 行動計画①②がともに具体的な検討段階に入ったレベル	

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度(計画策定時)		C	C	B	B	B	B	A	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>
2016年度進捗状況 & 今後の目標値	評価尺度: A~D	<実績> C	目標	<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> C					
	見込・実績・目標(値又は状況)	<実績> ハンズオン科目の拡大を検討、協議		満足度の調査方法を検討する段階					

【2016年度の進捗状況について】

← 新たなハンズオンラーニング科目の開発を検討している段階。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？

→ はい いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

- ①理由:
- ②今後必要な取組み:

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示

- ・ フィールドワークプログラムが計画通り進展することが期待されます。(C)
- ・ 概ね予定通り進捗している。(E)